

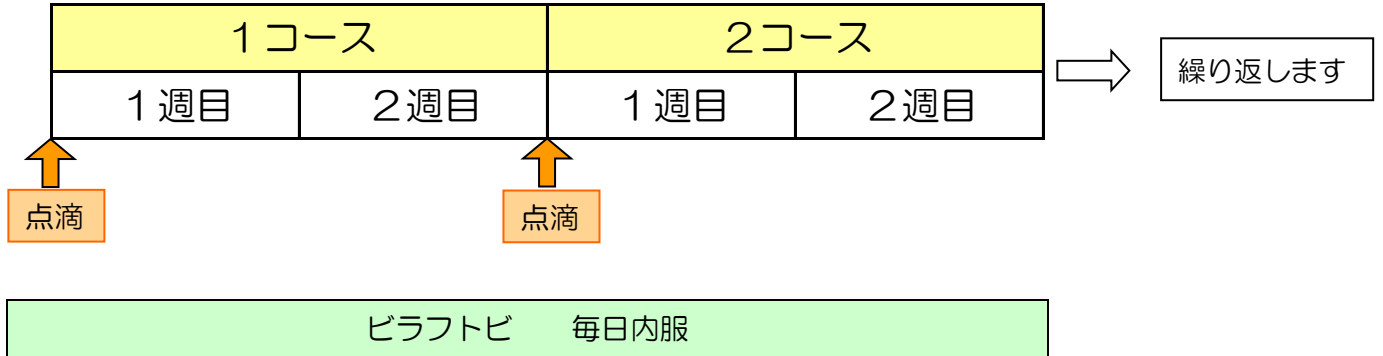
アービタックス/ビラフトビ療法について

1. 治療のながれ

治療スケジュール




通常「2週間」を一区切り（1コース）として治療します。

副作用の程度や体調によって治療計画を変更することがあります。



点滴スケジュール

点滴時間 約3時間半

薬品名		点滴時間	薬効
	生食 50ml +ポララミン +デキサート	30分	過敏反応を予防します。 ポララミン注: 抗ヒスタミン薬 デキサート: 副腎皮質ホルモン (ステロイド)
	生食 250ml+ アービタックス	120分	細胞の増殖に関わる因子を抑えることで抗腫瘍 効果を示します。
	生食 50ml	60分	過敏反応が起こらないか様子を見ます。

点滴順序
↓

血液検査の結果や問診による自覚症状の有無を確認し、化学療法実施の決定を医師が行います。
この他にも輸液等を使用することがあります。

2. ビラフトビカプセルを服用するときの注意点



- ① 1日1回服用します。医師に指示された用量を必ず守ってください。
- ② 飲み忘れた時について
次に飲む時間まで12時間以上ある場合はすぐに飲んでください。12時間を切っている

場合は飲み忘れた分をとばして、次の時間に1回飲んでください。

絶対に2回分を一度に飲まないでください。




- ③ 専用の服薬記録手帳があります。服薬状況を記録し、飲み間違いのないように心がけてください。

3. 予想される副作用

- 副作用は、治療内容や個人個人で症状の現れ方や程度が異なります。このため、副作用が出現した場合は、早期に対応できるようにすることが重要です。
- 副作用は、治療開始後すぐに起こる症状や、治療を繰り返すことで起こる症状があります。
- 副作用は「自分でわかる症状」と「血液検査などでわかる症状」があります。

副作用の特徴を理解し、体調に異常を感じた場合はすぐにお知らせください。

▼ 「自分でわかる症状」

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
アレルギー反応 (インフュージョンリアクション) 	薬剤投与中、投与後に起こることがあります。 発疹、悪寒、発熱、呼吸苦、めまいなどの症状が出現することがあります。 症状が出現時は、ステロイド剤と抗アレルギー剤で対応します。
皮膚障害 にきびのような発疹 皮膚の乾燥やひび割れ 爪の周りの炎症	保湿をするように心がけてください。 日光をなるべく避けるようにしてください。 手足への刺激（温めすぎ、締め付けのきつい衣服、長時間同じ体勢でいるなど）は避けてください。 症状に応じて飲み薬や塗り薬などを使用します。
手足症候群 ・ヒリヒリ・チクチク ・皮膚が水泡や赤く腫れる ・足裏のひび割れ	保湿をするように心がけてください。 日光をなるべく避けるようにしてください。 手足への刺激（温めすぎ、締め付けのきつい衣服、長時間同じ体勢でいるなど）は避けてください。 症状に応じて飲み薬や塗り薬などを使用します。 
下痢 投与直後から7日目頃 	普段の便通の状態を把握するように心がけてください。 腹痛が続く場合や、下痢の回数が多い場合は報告してください。 症状が出現したときは水分補給をこまめに行ってください。 水分の制限がない場合はこまめに摂取するよう心がけてください。
吐き気・嘔吐・食欲不振	電解質のバランスが崩れた場合に出現することがあります。 吐き気止めや症状や原因に応じてその他の薬剤を使用します。
眼障害	視力の低下、虫が飛んでいるように見える、まぶしく感じるなどの症状に気付いたら医師、薬剤師、看護師に知らせてください。
粘膜からの出血	主に鼻血、歯肉などから軽度の出血、血便がみられます。 これらの出血は通常軽く、たいていは、自然にとまります。 出血が止まらない時、血便だったときはお知らせください。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
関節痛	痛みが強い場合は痛み止めを使用します。
疲労感・無力症	無理をせず、十分な休息とるようにしてください。

▼「検査でわかる症状」



定期的な検査を行い、問題ないことを確認していきます。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
低マグネシウム血症	血中のマグネシウムの値が減少します。 減少する事で、嘔気・嘔吐、食欲不振、脱力感、眠気、筋肉の痙攣・ふるえなど症状が出現する事があります。
白血球 赤血球 血小板 腎機能 肝機能 などの項目も問題ないか確認していきます。	

ここに書いてあるもの以外の副作用が現れることもあります。

パンフレット「ピラフトビ+セツキシマブを使用されている方へ」もお読みください。

普段と何か違うな、おかしいなと感じたときは医師、薬剤師、看護師に報告してください。

治療を受けているときは、様々な不安や疑問を感じると思います。

そのようなときは主治医、薬剤師または看護師にお気軽に相談してください。



鹿児島市医師会病院 化学療法委員会

099-254-1125